モンゴルの地政学的役割の拡大：北東アジアと中央アジアの架け橋

アカデミシャン、大使　ツェデンダンバ・バトバヤル
（モンゴル科学アカデミー）

はじめに

モンゴルと中央アジアは政治・経済・戦略的な関連性が高い。近年、高官レベルの往来の増加、新たなパートナーシップ協定の締結など、関係性が強化。

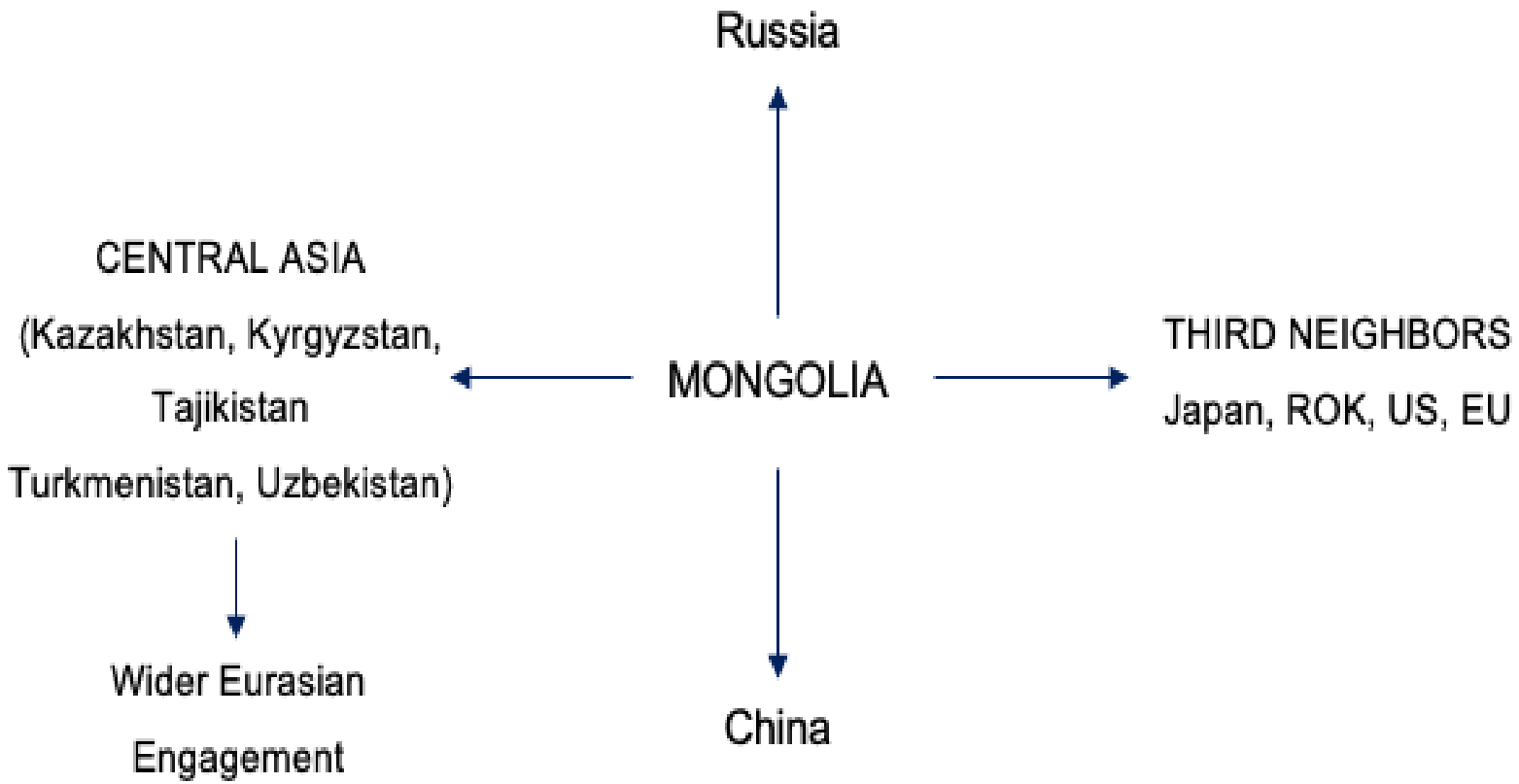
2022年以降、カザフスタン、キルギスタン、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタンとの関係拡大。モンゴルは、対外関係の多角化、新たな経済機会の創出、内陸国としての制約の緩和、広域ユーラシア地域における立場の強化を進めている。

モンゴルは、中央アジアとの関係を安定的かつ有意義な多方向外交へと転換できるか？



モンゴルの外交政策は常にその地形の影響を受けてきた

- ロシアと中国に挟まれた小さな内陸国であるが故に、モンゴルはこの両隣国とバランスをとる一方で、第三の隣国政策によってより広域なパートナー諸国と関係を深めてきた。





カザフスタン：2024年「戦略的パートナーシップ」締結。中央アジアで初の戦略的パートナー

ウズベキスタン、キルギスタン：包括的パートナーシップ

トルクメニスタン、タジキスタン：新たな政策・経済的な機運醸成

2023年７月、キルギスタンのサディル・ジャパロフ大統領がモンゴル訪問。

2024年10月、カザフスタンのカシムジョマルト・トカエフ大統領がモンゴル訪問

2025年６月、トルクメニスタンのセルダル・ベルディムハメドフ大統領、ウズベキスタンのシャフカト・ミルジヨエフ大統領がモンゴル訪問。

モンゴルのフレルスフ・ウフナー大統領は

2024年６月、タシケント訪問

2024年７月、アスタナの上海協力機構（SCO）首脳会議出席

2024年10月、アシガバート訪問

従来のロシア、中国、第三の隣国との関係に支障をきたすことなく、外交・経済面でのモンゴルの選択肢が増加。内陸国は、外交政策における柔軟性を維持しつつ１つの国・地域への依存を避けることが重要。対中央アジアは、モンゴルが外交政策の基本原則を変えずに戦略を展開できる。

協力の中心となる連結

モンゴルと中央アジア５カ国が持つ内陸国に共通の課題。

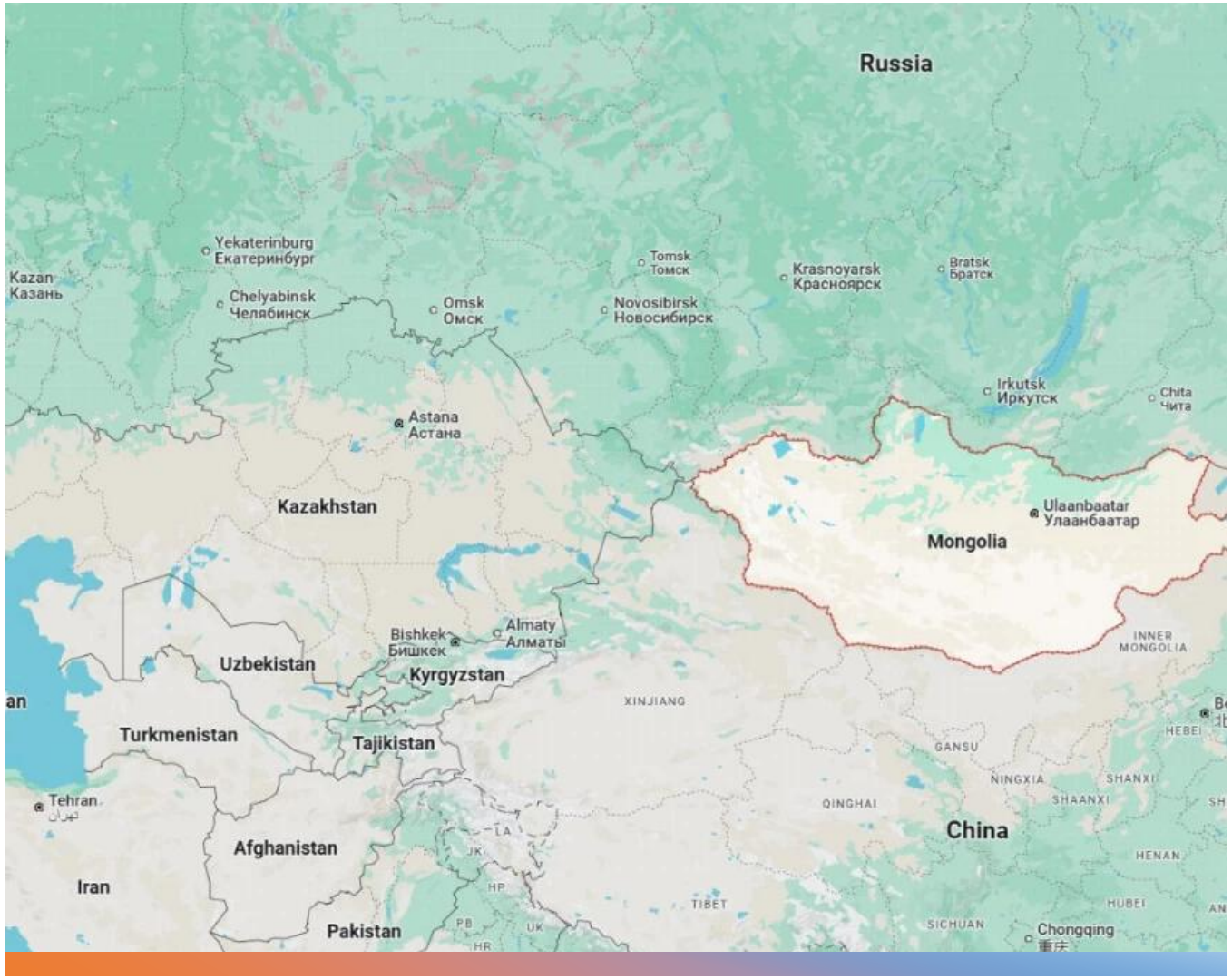
高額な輸送コスト、中継国への依存、世界市場へのアクセスの制限、外的要因に対する脆弱性。

モンゴルの中央アジア政策の中心は連結性。

輸送、ロジスティックス、税関協力、航空、貿易の円滑化は、モンゴルの長期的な経済安全保障と戦略的回復力に直結。

2024年10月、カザフスタン運輸省が、ロシア領を経由してモンゴルに至る新しいハイウェイを提案。2025年、キルギスタンと中国を経由するウズベキスタンとモンゴルを繋ぐ新しい輸送回廊実験が成功。貨物の輸送期間は８日。モンゴル～中央アジア間のロジスティックスの協力体制が整備。

モンゴル～中央アジア間は陸路の大半をロシア、中国を通過。ルートと市場を増やし、パートナーシップを強めることが経済関係の多様化・安定化に必要。



2026年４月、フレルスフ大統領がカザフスタン訪問。貿易、金融、農業、教育、情報技術の分野で18の協力協定締結。二国間関係の拡大に向けた構造的な協力関係構築。

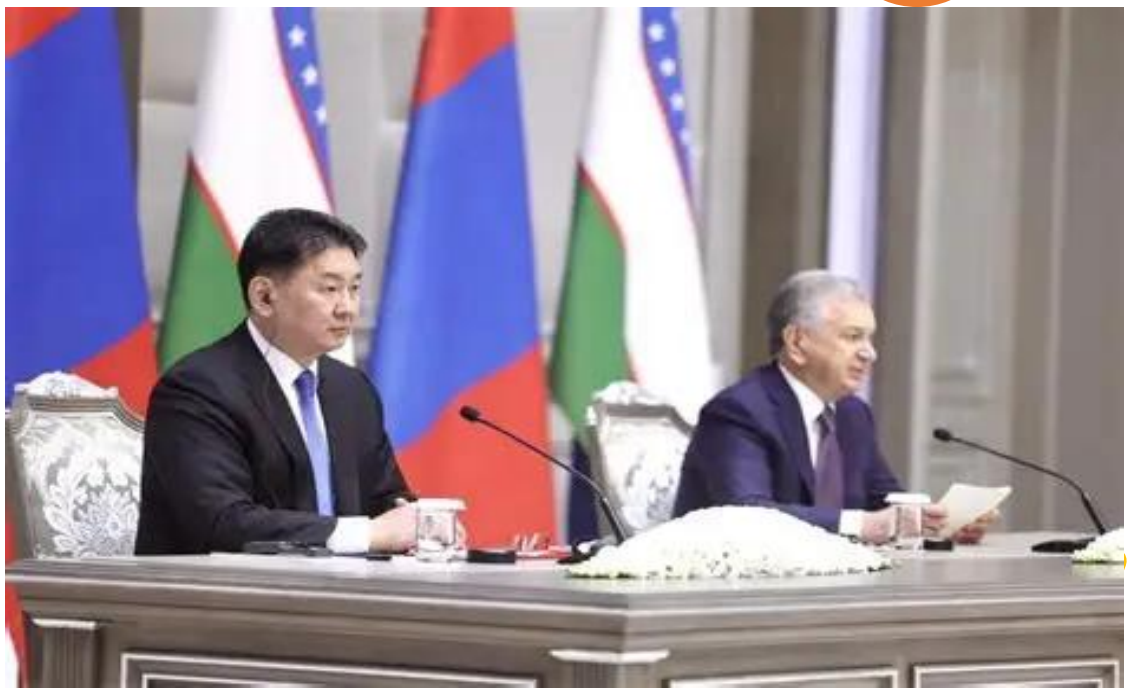
二国間貿易の目標額は5億ドル。輸送・ロジスティックスの制限への取り組みが求められる。2025年の貿易高は5,830万ドル（輸出1,320万ドル、輸入4,510万ドル）2024年比7.2%増。

モンゴルの輸出品目：食品、馬肉、羊毛・カシミア製品、絨毯・ラグ、輸送車両。輸入品目：小麦製品、菓子類、果物、米、アルコール飲料、タバコ類。

2024年のカザフスタンの対モンゴル投資総額2,577万ドル（銀行・金融44.7%、貿易・飲食業37.6%、地質・鉱業の探査・採掘8.8%、食品製造2.8%）。モンゴル国内にはカザフスタンの完全所有または合弁企業74社。モンゴル経営者もカザフスタンで事業展開。

二国間関係から地域アプローチへ

モンゴルと中央アジアの関係は、政治・経済・戦略的に共通の特徴を持つ地域として、二国間外交の枠を超え、より体系的なC5＋モンゴルという枠組みへ。



まず、利害関係が同じ分野（輸送・物流、貿易促進、農業、食料の安全、気候変動、砂漠化、デジタル化、観光、内陸の開発途上国同士の協力）に焦点。モンゴルの外交スタイルは、正式な同盟関係よりも、対話重視、柔軟性、実践的な協力。

中央アジアと北東アジアの間にあるモンゴル

- 中央アジアと北東アジアをつなぐモンゴルの位置付け。

外交政策の急激な変化ではなく、中央アジアへの「第三の隣国」政策への緩やかな拡大。米国、欧州、日本、北東アジアをパートナーとしてきた外交政策に、中央アジアを追加。

モンゴルの「架け橋」的役割の例として

中央アジアと北東アジアのパートナー間の対話促進

ビジネスと学術分野の交流促進

地域の連携事業を支援

エネルギー推移・気候変動・食料安全・持続可能な発展という共通課題を議論

モンゴルの役割は、経済規模や政治力よりも、中立で好意的イメージ、柔軟外交、異なるパートナーを結びつける点に優れている。

政策の優先度

1.中央アジア政策を制度化。

2. 連結性を重視し、輸送の合意、航空路の連結、税関の協力、輸送、広域的ユーラシア回廊へのアクセスを優先する。

3. C5＋モンゴル構想を段階的に作る。

4.中央アジア政策を広域外交と結びつける。貿易の多様化、持続可能な発展、気候変動への耐性強化、北東アジアの関与。



表１　モンゴル–中央アジア関係の政策的枠組み案

優先度	短期的行動	中期目標
組織化	外相・上級官僚の定期協議の開催	モンゴルー中央アジアの緊密な政策枠組みの作成
連結性	輸送障害、航空連結、税関手続きの見直し	ユーラシア輸送網との効果的な統合
経済協力	優先部門とビジネスプロジェクトの特定	持続可能な貿易と投資関係の構築
C5＋モンゴル	非公式な専門家・上級官僚会談の実現	定期的な地域協議メカニズムの構築
中央アジアー北東アジア連携	学術・ビジネス・政策の対話促進	地域間協力のプラットフォームとして位置付け

結論

- モンゴルの対中央アジア積極外交は政策の転換ではなく、戦略の方向性を行動・構造的に利用している。限定的な二国間関係からより広域な地域政策への転換が重要。中央アジアは外交の多様化、新しい経済・輸送の機会、中央アジア～北東アジア間の広域協力に向けた潜在的な基盤を提供する。
- この政治的機運を、機能的な組織、現実的な輸送連結、ビジネス関係の強化、地域対話の定例化という実現に繋げられるか。中央アジアはモンゴルの多面的外交政策における要であり、モンゴルが戦略的レジリエンスを強化し、政治的・経済的に変化するユーラシアで積極的な役割を果たす一助となる。